



捨てちゃう包装を風呂敷に！？

金子彩乃 齋藤香菜 石川柚凜 池田亜依香

背景・目的

我々はお菓子の過剰包装に焦点をあて研究したが、過剰包装そのものには十分な利点が存在した。しかしそれだけでは我々が考えていた目的を果たすことができないのではないかと感じた。今回の研究の目的としては、風呂敷を有効に使うことで、あまり需要のない過剰包装の代替品としてゴミ問題の解決へ貢献し、また、その地域活性化に貢献するものとする。

すでに分かっていること

- ・過剰包装かどうかは消費者側のニーズによって決まるため、二重包装は意味のある包装である。
- ・紙の包装は、プラスチックの包装よりも環境に優しいとは一概に言えない。

仮説

- ・風呂敷を包装として使うのは現実的だ。
- ・従来の包装から風呂敷に変更することで包装ゴミを減らすことができる。

研究の方法

- ・齋藤染工場さんへ企業訪問を行い、風呂敷の実用的な使い方や、ラッピング、デザインについて質問する。
- ・実際に使っている人のお話を聞く。

結果

- 風呂敷のメリット
- ・エコである
- 風呂敷のデメリット
- ・コストがかかる
 - ・濡れると色落ちする
 - ・包むのが大変
- 最初から袋の形になっている東袋がある。

- 酒田のもの(傘福や獅子舞、白鳥など)が模様になっている風呂敷があった。
- 約50年前では現在のレジ袋の役割を風呂敷が担っていた。

結論

風呂敷には、コストがかかる、濡れると色落ちするといった欠点があるが、何度も使い回しのできる東袋を使用することで解決することができるため、包装として使用することは現実的である。よって、東袋を普及することでごみ問題を解決できる。また、酒田をモチーフとした東袋を使うことによって、地域活性化にもつなげられると考えた。

考察

- ・風呂敷は特別な贈り物として贈るのに適しているのではないか。
 - ・需要によっては風呂敷の値段が難点にならないのではないか。
- (→酒田のお土産のラッピングを酒田モチーフの東袋にすることで包装の需要を高まり、東袋ラッピングの商品を買う人が増えるのではないか)

今後の展望

- ・酒田の特徴を取り入れた風呂敷を制作することで、風呂敷そのものの普及を目指す。
- ・風呂敷の普及を目的とした、お土産のあり方について継続研究をしてもらいたい。
- ・実現のために、コスト面での課題解決

参考文献

- ・学生奨学論文入賞者論文集(2015年度)大阪経大学会 (参照日2023年8月30日)
https://www.env.go.jp/recycle/yoki/a_1_recycle/
- 【研究に協力していただいた方】
- 酒田米菓様
齋藤染工場様